

## Ⅱ 道徳授業実践例

### 1年生の実践（2年次 6月3日）

#### 本時の視点

うさぎと動物たちが丘の上でテーブルを囲んで会話をする場面において、自分との関わりで考えさせるために役割演技を取り入れることにより、身近な人に温かい心で接し、親切にしようとする心を育てることができるであろう。

1. 主題名 相手の気持ちを考えて（B 親切、思いやり）

#### 2. ねらいと資料

（ねらい）身近な人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を養う。

（資料名）「ごろりん ごろん ころろろろ」

（出典； 文溪堂 「1ねんせいのどうとく」）

#### 3. 主題設定の理由

##### （1）価値観

本主題は、学習指導要領の指導内容「B. 主として人との関わりに関する事」の「親切、思いやり」を受けて設定したものである。これは、よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢として、相手に対する思いやりの心をもち親切にすることに関する内容項目であり、第3学年及び第4学年の「相手のことを思いやり、進んで親切にすること」さらに、第5学年及び第6学年の「誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること」に発展していく。

豊かな人間関係をつくる第一歩は、相手を思いやることである。相手の気持ちを押し量り、相手の立場に立って温かく接したり、励ましたり、援助したりする行為は、豊かな人間関係を築くうえで、不可欠である。人間は、一人一人が社会を構成する一員であり、社会の中で支え合って生きている。自分本位に勝手な行動をしてばかりでは社会は成り立たない。豊かな人間関係を築くことが、よりよく生きることに繋がっていく。そのため、小学校低学年から身近な人に親切にすることは大切にしたい資質であり、特に学校生活で、多様な人と直接関わり合う機会を多くし、その資質を育てていくことは意義のあることと考える。

この時期の児童には、相手の立場に立って、気持ちを考えることが難しいと思われる。そこで、資料を通して相手を思いやる気持ちが、親切な行動につながっていくことに気付かせ、相手を思いやることの大切さについて考えをより深めさせていきたい。また、これらのことは、本校の研修テーマ「ともによりよく生きようとする児童の育成」につながるものと考えている。

##### （2）児童観（児童数25名）

児童は、「やってあげたい・助けてあげたい」「先生にほめられたい」という気持ちから親切な行動が徐々にできるようになっている。日常生活において、泣いている友達がいると「どうしたの」と声をかけたり、落ちている物を拾って届けてあげたり、重そうなバケツと一緒に運んであげたりする様子が見られる。また、教師の「ありがとう」「えらかったね」という称賛の声により、やる気が増して「今度もやってあげよう」と笑顔で言っている児童もいる。これまで身近な人に温かい心で接し、親切にしようとする心を育てる

ために、次のような指導を行ってきた。

学級活動の「係の仕事」について話し合う場面では、友達が困っていたり大変そうだったりした時は、自分の仕事でなくても助け合うことの大切さについて考えることができた。また、折に触れて学級目標の「ともだちにやさしくしよう」を振り返ることにより、友達との関わり方を考えることができた。

生活科の「がっこうだいすき」の単元では、校外学習に出かけグループで遊びながら、怪我をした友達を気遣ったりトイレに行きたそうな友達に声をかけたりする行動が見られ、児童同士で相手を思いやる姿が見られた。

このように、様々な活動を通して、親切にすることの大切さについて考えることができたが、関わりが少ない友達に対しては、見て見ぬふりをしてしまったり、自分のやりたいことを優先してしまったり、過度のおせっかいとなってしまうたりしてしまう場面も少なくない。相手の気持ちや立場に立って行動することはまだ難しく、自己中心的な考えで行動していると考えられる。

そこで本時では、「深化」を意図し、困っている人などに温かい気持ちで接し、相手にとってどのようにすることが親切なのか、また親切にすると自分も相手もうれしい気持ちになることなどを考えさせながら、自分から進んで親切にしようとする心情を養いたい。

### (3) 教材観

うさぎに対する動物たちの思いやりが広がっていくことで、みんなが笑顔で過ごせるようになることを、荷車の音の変化に重ねて感じ取らせることができる資料である。特に、最後の場面の「ありがとう ありがとう ありがとう」は、うさぎから他の動物たちへの一方的な気持ちだけではなく、動物たちからうさぎへの親切に対するうれしい気持ちの表れでもあるということを役割演技を通して考えさせることで、他者理解や価値理解を図っていく。

そこで、最後の場面を中心発問とし、登場人物に共感させることを通して、相手の立場に立って温かい気持ちで接することが自分も相手もうれしい気持ちになり、それが親切な行動につながるという価値理解を深めさせたい。加えて、うさぎが荷車を重そうに運んでいる時の気持ちや、動物たちが進んでうさぎを手伝おうとする理由を考えさせることで、他者理解も図っていく。

## 4. 指導方針

〈研修主題に迫るために〉

- 自分の思いや考えを全体の前で発表したり、友達の考えを肯定的に聞いたりすることができるような温かい学級づくりに努める。
- 友達の思いや考えのよさに気づき、進んで自分の考えに取り入れたり役立てたりするよう働きかける。

〈事前〉

- 学級目標「ともだちにやさしくしよう」を意識して行動させるために、生活を振り返る機会を適宜設ける。

〈本時〉

### 【課題をつかむ】

- 今までの生活において、親切にした経験があるか想起させることで、友達に優しくしたり助けてあげたりすることが親切であるということに気づかせる。本時が親切について考える時間であるという問題意識を持たせる。

### 【価値を追求する】

- 自分との関わりで考えることができるように、資料の登場人物や言葉を黒板に掲示する黒板シアターの方法を取り入れる。これにより、児童は考える場面が明確になったり、話の内容理解が容易になったりし、登場人物を通した追体験を行いやすくなる。
- 時間の経過とともに丘を登るうさぎの荷車がだんだん軽くなっていく様子を視覚的に捉えやすくするために、板書は横書きにし「ごろりん」「ごろん」などの擬音語カードを黒板に掲示する。
- 中心発問の場面では、児童が登場人物になりきって気持ちを表現したり、共感したりすることができるように、動物たちの名前付きの帽子を活用して役割演技を行う。
- 役割演技の場面では、助言や補助発問を行うことで、ねらいとする道徳的価値の自覚が深められるようにする。

**【価値の内面的に自覚する】**

- 振り返りの場面では、「これからしてみたい親切」を考えさせることにより、価値理解だけでなく自己理解も図っていくようにする。
- 一人一人が自分の生活をふり返り、親切にしたことやされたことを全体で共有することにより、親切な行いのよさに気付かせ、親切にしようとする心情を高めていく。

〈事後〉

- 学級目標「ともだちにやさしくしよう」を意識して行動させるために、生活を振り返ったり、学級活動や帰りの会などに「ともだちができたよ」の歌を歌う機会を適宜設ける。

**5. 本時の学習**

**(1) ねらい**

身近な人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を養う。

**(2) 準備**

動物たちのペープサート、情景絵、擬音語カード、動物たちの名前付き帽子

**(3) 学習指導過程**

過程	学習活動（主な発問）	予想される児童の反応	時間	指導上の留意点（・） 評価（◆）
課題をつかむ	1. これまでに親切にされた経験を発表する。 （みなさんは誰かにしてもらって嬉しかったことはありますか。）	・友達に鉛筆を拾ってもらった。 ・転んだときに保健室へ連れて行ってくれた。	5分	・親切にされた経験について振り返らせ、何人かの児童に発表させる。 ・親切とは、相手のことを考えてとった行動であることを意識させ、価値への方向付けをする。
価値を追	2. 資料「ごろりん ごろん ころろろ」を語り聞かせ、登場人物たちの気持ちを考える。 （1）一人でテーブルを作っていた「うさぎ」の気持ちを考える。 （うさぎさんは、テーブルを作りながらどんなことを思っていたでしょう。）	・みんなが使ってくれるといいな。 ・みんな喜んでくれるかな。 ・がんばって作るぞ。 【他者理解】【価値理解】	30分	・黒板シアターとして、資料を提示することで、資料への興味・関心を喚起する。 ・登場人物のペープサートを動かしながら、動物たちがとった行動について

<p>求 す る</p>	<p>(2) 一人でテーブルを運んでいたうさぎと、それを手伝う動物たちの気持ちを考える。 (動物さんたちは、なぜうさぎさんのお手伝いをしようと思ったのでしょうか。)</p> <p>(3) 「ありがとう」と言ったうさぎや動物たちの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>丘の上でテーブルを囲んでいるうさぎさんや動物さんたちは、どんなお話をしていますか。</p> </div> <p>☆動物さんたちは、どうしてうさぎさんを助けようと思ったのですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重そうだから手伝ってあげよう。</li> <li>・一人じゃ大変そう。</li> <li>・ろばさんが手伝っているからぼくも手伝おう。</li> <li>・ぼくは力があるから任せて。</li> </ul> <p><b>【他者理解】【価値理解】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疲れたね。</li> <li>・やっと着いたね。</li> <li>・楽しかったね。</li> <li>・みんなで使えて嬉しいね。</li> <li>・うさぎさんが大変そうだったから。</li> <li>・一人じゃ重そうだったから。</li> <li>・みんなのために作ってくれたから。</li> </ul> <p><b>【他者理解】【価値理解】</b></p>	<p>考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物たちがうさぎを手伝った理由を考えさせることにより、大変そううさぎの立場に立って行動していることを押させる。</li> <li>・擬音語カードを黒板に掲示し、荷車がだんだん軽くなっていく様子を視覚的に捉えさせる。</li> <li>・うさぎや動物たちの表情から、嬉しい気持ちであることに気づかせる。</li> <li>・うさぎと動物たちの立場に分かれて数名の児童に役割演技をさせる。(2回)</li> <li>・児童の発言は受容的に受け止め、価値理解につながる言葉だけを板書し、相手を思いやる気持ちが親切な行動につながっていくことに気付かせる。</li> </ul> <p>◆うさぎを進んで手伝う動物たちに共感することを通して、親切にすることのよさについて考えを深めることができたか。 (発表、つぶやき)</p>
<p>価 値 を 内 面 的 に 自 覚 す る</p>	<p>3. これまでの自分を振り返り、自分がやってみたい親切について話し合う。(これから、人にどんな親切をしてあげたいですか。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落とし物があったら拾ってあげる。</li> <li>・重そうなものを持っていたら一緒に持ってあげる。</li> <li>・誰かが泣いていたらいじょうぶと言ってあげる。</li> </ul> <p><b>【自己理解】【価値理解】</b></p>	<p>10分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親切にしたりされたりすると、互いに心地よい気持ちになることを意識させる。</li> <li>・学級目標の「ともだちにやさしくしよう」に触れ、価値理解を高める。</li> </ul> <p>◆親切にすることについて、自分との関わりで考え、相手にとってどのようなことが親切であるかを考えることができたか。 (発表、つぶやき)</p>

## 6. 資料分析図

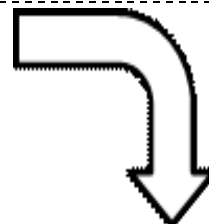
ね ら い：身近な人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を養う。  
 授業の意図：相手を思いやる気持ちが親切な行動につながるということに気付かせるために、うさぎと動物たちの気持ちを考えさせ、親切にするためのよさ（価値理解）について理解させる。

中心発問：丘の上でテーブルを囲んでいるうさぎさんや動物さんたちは、どんなお話をしていますか。

意 図：相手を思いやって行動したことが、自分も相手も嬉しい気持ちになることを自分との関わりで考えさせる。

価値理解 他者理解

☆動物さんたちは、どうしてうさぎさんを助けようと思ったのですか。



発問：一人でテーブルを運んでいるうさぎと、それを手伝う動物たちはどんな気持ちでしたか。

意図：大変そうなうさぎを思いやる動物たちの心の中を自分との関わりで考えさせる。

他者理解 価値理解

発問：これから人にどんな親切をしてあげたいですか。

意図：相手を思いやり温かい心で接することについて考えさせる。

自己理解 価値理解

発問：一人でテーブルを作っていたうさぎはどんな気持ちでしたか。

意図：うさぎが動物たちのためにテーブルを作る場面を自分との関わりで考えさせる。

他者理解 価値理解

## 7. 授業記録 (T:教師 C:児童)

T：丘の上でテーブルを囲んでいるうさぎさんや動物さんたちは、どんなお話をしていますか。(中心発問)

挙手した児童に動物の名前が書いてある帽子をかぶらせて、どの動物が言っているか分かるようにした。

T：うさぎさん、みんなに話しかけてみて下さい。

C1：ごちそう、食べたい？

T：くまさんは？

C2：食べる。

T：(補助発問) 動物さんたちは、どうしてうさぎさんを助けようと思ったのですか。

C3：荷物が倒れそう、大変そうだったから。

T：くまさんは？

うさぎさん、みんなに話しかけてみて下さい。



C 4 : 疲れそう。

T : きつねさんは？

C 5 : (うさぎさんが) けがをするから。

T : うさぎさんは、助けてもらってどんな気持ちだったかな。

C 6 : うれしかった。

T : りすさんからうさぎさんに？

C 7 : うさぎさん、ありがとう。

T : くまさんからうさぎさんに？

C 8 : ありがとう。

C 9 : たいへんそうなとき、またたすけてあげるね。

T : うさぎさんは？

C 10 : 手伝ってくれてありがとう。

T : みんなうさぎさんのことを思って助けてくれたんだね。

T : なんてうさぎさんは、テーブルを作ったの？

C 11 : みんなが喜ぶから。

T : うさぎさんは、みんなが喜ぶようにテーブルを作ったんだね。

T : なんてみんなありがとうと言ったの？

C 12 : うさぎさんが、テーブルを作ってくれたから、ありがとう。

(このテーブルで) ごちそう食べたい？

食べる



手伝ってくれてありがとう。



テーブル作ってくれてありがとう。

大変そうなときまた助けるね。

うさぎさんありがとう。

## 8. 板書



## 9. 成果と課題

### 【価値を追求する】

- 教師主導ではあったが、子ども同士で自分の思いや意見を伝え合うことができていた。
- 黒板全体を使っての資料提示(黒板シアター)は、児童が資料を理解するのに役立った。
- 板書上の擬音語カード「ごろん」「ごろん」「ごろん」「ごろろろ」は、手伝う動物が一人ずつ増えるごとにテーブルがだんだん軽くなり、うさぎが楽に運べるようになっていく様子を捉えさせるのに有効だった。
- 親切にする側もさせる側も「おたがいがうれしくなる」という言葉が子どもたちから出ていた。
- 役割演技の場面では、児童が一直線になって行っていたが、円くなったり実際にテーブルを用意したりして、互いの顔が見えるように演技したほうが登場人物の気持ちをより引き出すことができたのではないか。